てん一新聞

'10.6.No157
発行責任 市岡暁
0883-88-5292

午前四時頃になると明るくなりはじめる。

すると、ホウジロやウグイスが鳴きはじめて、ちょっと目が覚めるが、また眠りにつく。

五時になる頃か山の頂きには陽が差しはじめ、みるまに我が家の方にも太陽が差し込んでくる。

この頃は、ちょっとヒンヤリして、気持がよい。身が引きしまってくるが、山の稜線がクッキリと見えてきてこの地に居ることが、ええなあと感じてくる。

今とが いちばん

そんな日の朝、美味しいコーヒを飲みながら縁側に座って、向こうの山々を見てる時が、「ゼイタク」。

聞こえて来るのは、風に乗って時々祖谷川のせせらぎの音、そして、音がするのかしないのか新緑の葉が揺れている。時には、大きな動物の鳴き声がする。なにやら、猿も今日の移動をはじめたようだ。移動しながらの小競合いがあるようだ。ふっとジャガ芋が心配になる。

不便な祖谷のくらし

～ニリンソウ～

都会でくらしている人にとっては無縁な田舎の一日のはじまりですが、この状況は、不便がくれるプレゼントです。

周りに便利なものがあふれて、何でも手にはいるような生活では決して味わえない、心が豊かになりそうなの不思議なくらいです。

それでも、毎日暮らしていると、これが、不満になってくるからつい気なもんです。

だから、出来るだけ不満にならないようにするには、不便を楽しみ、不便とつきあって、便利なものを欲しがらない、ことだという事に気がつくと不便な祖谷が、大変いい所だと感じるようになってきました。

そりゃ大変ですけど、汗かいて苦労した分、その後に味う感覚は忘れません。

～小川地区 島本さん宅からの展望～

だから、これからの季節は祖谷が一番輝く時。

観光客がドッと来なくても、住んでいる人が少なくても、自分自身が、住んでる人が輝けるのが今。

暑いとか寒いとか言いながらも、昨日までにはなかったものが、今日、見つけることができます。

どうしたら楽しいか、何をすれば面白いかに気がつけば、不便ほどいい事はないのかも知れません。

便利に慣れて、頭も身体も使わなくなるより、ずっとずっといいですよ。

きょうも、またホウジロやウグイスに起こされました。さて、コーヒーでも飲むか。